

ひまわり賞 (オークス)

3歳牝・ダート1800m M1

8月9日 (日) 盛岡競馬場

昨年の優勝馬・ミナトミナイト



JBC協会協賛 HITスタリオンシリーズ／日刊スポーツ杯

第40回 ひまわり賞 (オークス) (M1) (サトノダイヤモンド賞)

盛岡競馬場／3歳牝・ダート1800m

8月9日 (日) 第11競走 19:15発走

3歳牝馬の二冠目となるひまわり賞 (オークス) は1987年に『4歳雌馬チャンピオンシップ』 (※4歳は旧年齢・現在の3歳) として設立。当初は8月下旬～9月上旬に行われる3歳牝馬の女王の座決定戦でもありました。ひまわり賞のあとの3歳牝馬はダービーGPで同世代の牡馬と戦う、あるいはビューチフルドリーマーカップで古馬牝馬と戦う路線になっていましたが、2020年にオータムティアラが設定されて3歳牝馬三冠路線が再整備。ひまわり賞 (オークス) は現在の二冠目の位置になると同時に距離も2000mから1800mに短縮されました

※現在の“3歳牝馬三冠”は留守杯日高賞・ひまわり賞 (オークス) ・オータムティアラです。

■スカララッティ (牝3 岩手・伊藤和忍厩舎)



デビューは今年2月のJRA京都と遅く、結果的には2戦を経たところで新天地を求める事に。しかし6月の岩手転入初戦・2戦目で連続2着になると3戦目で待望の初勝利。デビューから5ヶ月、ようやく力量を発揮し始めたのだと見ていいだろう。今回が重賞初挑戦という以前に同世代の一線級との初の対戦だし、距離もJRA時代に経験があるとは言え盛岡では初の“初めて尽くし”なのは常識的には厳しい舞台設定と言わざるを得ないが、今の伸び代でまとめて乗り越えてしまいたい。

間隔を空けて緩ませるよりは使った方が良いと考えて、中間もしっかりケアしながら整えてきました。能力はある馬だと思うし距離もプラス材料でしょう。(伊藤和忍調教師)

■クイーンオメガ(牝3 岩手・齋藤雄一厩舎)



4月の留守杯日高賞の際の陣営コメントでは「落ち着きが出て状態も良化ムード」。あやめ賞4着の勢いを駆って留守杯日高賞でも・・・だったが、そこでは11着に敗れる結果となった。その後は一進一退、大きく見て距離も1400mあたりがより良さそうに感じる戦績だが、二走前や三走前にはマイルで、3歳準オープン級と言えるB1クラスで牡馬相手にも健闘している。2歳時だって重賞級のライバル達に食らいついていた馬だ。牝馬同士なら油断できない存在になっていい。

着順は上下していますが状態面は平行線。この馬にはちょっと長いと感じる距離への挑戦ですが頑張っ欲しいですね。（齋藤雄一調教師）

■ライクシュガー(牝3 岩手・小林俊彦厩舎)



JRA未勝利から兵庫、金沢、そして岩手へと転戦。JRA時代や兵庫時代の初期はスタート難もあったようだがそれも徐々に解消し、金沢では逃げて勝ち星を挙げるまでのスピードを見せていた。そこが本馬の成長と言えるだろう。旧地での戦績を見る限り現状では短距離がベター、マイル以上では苦戦という印象が否めないが、あくまでもまだ力を付ける過程にある馬。全てはこれからの成長に繋がってくれるはず。

距離の経験はありますが長めの距離はもうひとつだった印象。ここは自分の競馬をして少しでも上位に入って、それが今後に繋がればと思います。（小林俊彦調教師）

■キララカ(牝3 岩手・菅原勲厩舎)



今季開幕の時点では2歳重賞で掲示板確保2回の実績、春先の重賞では結果が出なかったものの徐々に良化の気配を感じさせていた本馬だったが、その後も掲示板圏を争う戦いが続いている。近走にしても必ずしも大敗はしていない、例えば上がり3ハロンの末脚も決して遅くはない。地力あるところは感じさせているのだが。改めて2歳時の戦績を振り返ればあのレジェンドバローズに4馬身差に食い下がった事もある。備えた力量の完全発揮に注意しつつ期待し続けたいもの。

最近の結果がもうひとつですが馬の状態自体は変わりないと感じます。ただここは相手がちょっと強いのではないのでしょうか。（菅原勲調教師）

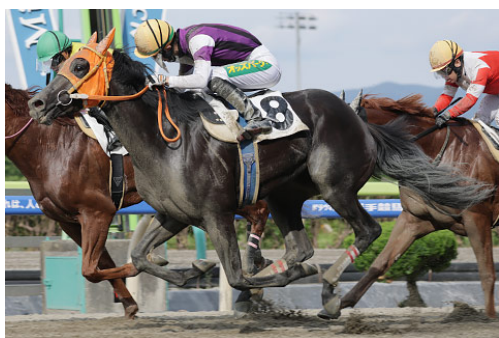
■モズホンマデッカ(牝3 岩手・伊藤和忍厩舎)



門別デビューで9戦1勝、昨冬に岩手に移籍してから当初の2戦は苦戦したが、12月の3戦目、最後方近くから捲り上げる競馬で勝ち切って今の戦法が定まった。今季ここまで1勝と勝ち星を増やせずにいる近況だが、盛岡も水沢でもなかなか差し有利にならない馬場傾向なのを思えば十分に戦えている。その点で展開の助けはどうしても欲しいが、それがハマるようなら上位突入も…はしっかりと念頭に置いておきたい。

展開の助けも必要なタイプなので着順は一進一退ですが馬の状態は変わりないです。距離も持つと思いますし、しっかり溜めて脚を使う形になれば（伊藤和忍調教師）

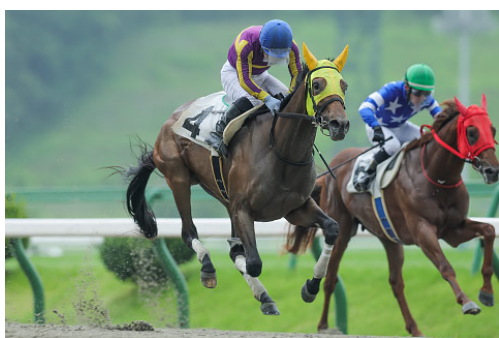
■サスケベラ(牝3 岩手・新田守厩舎)



門別、船橋と転戦してこの春に岩手移籍。岩手での白星こそひとつに留まるが3歳B1級で常に上位を争っており内容は着順の数字以上に濃いと言えるだろう。実際、門別や船橋でものちの重賞級の相手から大きく離されずに戦っていた。「白星先行ではないものの力量は高い馬」と考えて良さそうだ。同距離の前走の大敗が気になる点だがこれは馬体減の影響もあったということ。それ以前の内容からは軽く見るのは禁物。

前走時はちょっと馬体減で、今にして思えばやや状態が落ちていたのかも。距離が敗因ではないと思います。前走時よりは良い状態で挑めると思います。（新田守調教師）

■ムルーデ(牝3 岩手・三野宮通厩舎)



JRA時代はダート1200mから芝の1800mまで幅広い距離で戦って、結果としては掲示板圏内に入るかどうかには留まりはしたが戦う毎に進境を感じさせていた。岩手転入初戦に即座に勝ち切ったのもその上昇曲線を思えば不思議ではない。左回りが得意といわれていたので盛岡に替わって勝ち星を増やしたのも同様だ。懸念とすればデビュー当初に走った芝1800mが“長い”という評価だった点。とはいえ力を付けて勢いを増す今なら距離もクリアしてくれるかも。

こちらに来てから順調でしたが夏場になっても良い状態を保っている。前走で良い決め手がある事も分かったしね。距離は未知数ですが楽しみにしています。（三野宮通調教師）

■セイクリスティーナ(牝3 岩手・佐々木由則厩舎)



3歳女王が二冠目に挑む。今の岩手の3歳牝馬三冠路線は一冠目にあたる留守杯日高賞が交流重賞となっていて突破のハードルがなかなか高い。同レースでの地元馬勝利が9年ぶりだった事からもその難易度の高さがうかがえるだろう。それだけに一冠目を制して三冠に挑む“権利”を手にした彼女には、より大きな目標が先にあるのだとしても、二冠、三冠と挑んでいってほしいもの。まずは二冠目のこのレース。しっかり強さを見せつけて次戦への飛躍を期待しよう。

直前の時計は軽めですがオーバーワークにならないように調整してきました。それでも力を出してくれると思います。(佐々木由則調教師)

■ピコデオリサバ(牝3 岩手・佐藤雅彦厩舎)



昨年6月の2歳新馬戦でデビュー勝ちを飾った本馬だったがその後はなかなか勝ち星を増やせず。前走の勝利はそんな彼女にとって13ヶ月ぶりの美酒となった。9番人気からの勝利で馬券的にも波乱を演出した形だが、しっかりとした末脚を繰り出して差し切った走りはなかなかの強さ。振り返ってみれば春のあやめ賞では2番手グループの中で大きな差のない7着、6月にはベアコルムと4馬身弱で戦っていたのだからやはり力はある馬だ。久々勝利の勢いに乗ってみる手も“あり”かもしれない。

前走時は不良馬場と展開が味方してくれたように感じます。状態は変わりないですが相手関係や距離が変わってどれくらいやれるか？ですね。(佐藤雅彦調教師)

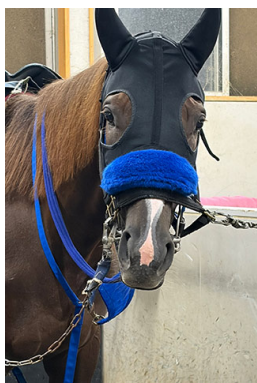
■ベアコルム(牝3 岩手・菅原勲厩舎)



岩手転入の初戦から5連勝、一気に重賞まで制して見せた。そのウイナーカップでは3番人気での勝利だったが、ジェイエルビットやリアルラインらの重賞勝ち馬たちを完封しての逃げ切り勝ちにフロック感はなかった事は改めて思い出しておきたい。直近の二戦はやや苦戦の形だが初距離あるいは初洋芝での戦いだったと思えばむしろ一線級の中での手応えは十分にあった。それまでの走りを、備えているだろう高い地力を思えば近走だけで軽視は禁物だ。

重賞を勝ったように力はあるし近走も状態は悪くない。ただ距離は、一度経験はしていますがちょっと長いのかもしれませんね。(菅原勲調教師)

■リケアマカロニ(牝3 岩手・菅原勲厩舎)



JRA1勝クラスからの転入初戦になる。その旧地では2歳新馬戦で3着、東京ダートマイルで初勝利を挙げ、1勝クラスではやや大きめの着順に留まったが「もっとやれて良い馬」が陣営の評価だったことは覚えておきたいところ。距離経験あり、広いコースも合いそうだし持ち時計としてもひとまず通用の計算ができる。“対女王”の刺客としてやってきたこの馬の走りがどんなものか？が最大の注目点になりそうだ。

こちらに来てからは夏負けもなく状態は悪くない。岩手では初めてのレースになりますがここでどれくらい通用するか？良い結果を期待しています。（菅原勲調教師）

■ヒナタ(牝3 岩手・畠山信一厩舎)



初めて挑んだ重賞が芝の地方競馬全国交流戦。結果として4着に終わったとはいえ勝負所から勝ち馬と一進一退の攻防を繰り広げた戦いぶりは見せ場十分。むしろ重賞級でも通用するメドを立てた一戦だっただろう。4勝のうちの3勝が盛岡、JRA時代も左回りで好走しているように「盛岡の方が良い馬」と畠山師。未知の領域に入ってくる距離は確かに課題だが、転入後4連勝を挙げた勢いを改めてここにぶつける。

前走は芝でしたが一線級が相手でもソコソコの競馬ができていた。距離が伸びるのは未知数ですが融通は利くと思っています。（畠山信一調教師）

文・写真／横川典視

リケアマカロニ写真提供／菅原勲厩舎